

鳥取県農業共済組合

1.鳥取県の特徴

鳥取県を地域別に分けると東部・中部・西部と3つに分けることができます。東部に千代川、中部に天神川、西部に日野川があり、三つの河川の流域に平野が形成され、それぞれ鳥取市、倉吉市、米子市が流域の中心都市として発展しました。

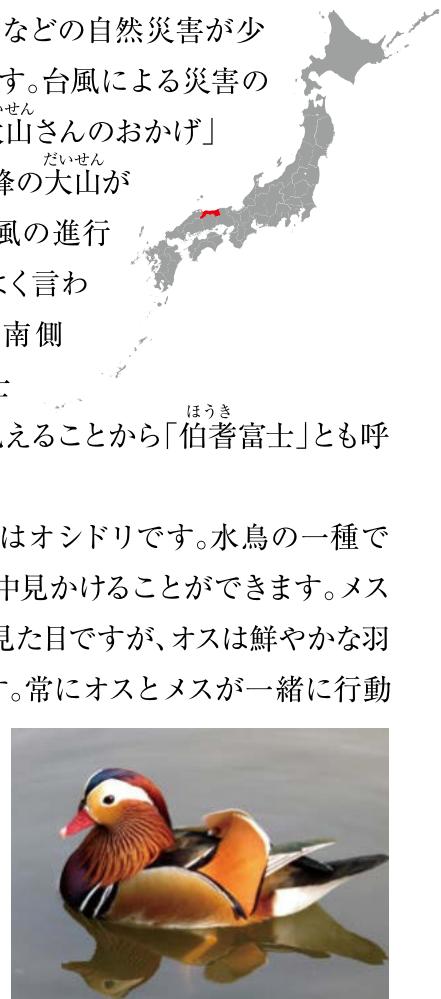
鳥取県は人口約558千人と人口が日本で一番少ない県です。面積は3,507平方km。東西約120km、南北約20～50km東西にやや細長く、豊かな自然に囲まれています。北は日本海に面し、南には、中国地方の最高峰・大山をはじめ、中国山地の山々が連なっています。豊かな自然に囲まれているためか果物、魚、カニなど、海の幸や山の幸が豊富にあります。東は特色ある砂地農業が営まれ、全国に知られる特産品である砂丘らっきょうを生産しています。中央は農地が多く、県内を代表するスイカの一大産地として有名です。西は鳥取の冬の味覚の王様と言われる「松葉がに(県産ズワイガニの雄)」を含むカニ類の水揚げ量が日本一の境港があります。

2.鳥取の農業

鳥取県の農業就業人口は約26千人。うち65歳以上の人口は約18千人と約7割の農業者が準高齢者以上にあたります。鳥取を代表する農作物としてらっきょう、すいか、梨が挙げられます。らっきょうの生産量は全国1位です。らっきょうは、砂地や荒廃地などの痩せた土壌でも育つという特性があり、東部に広がる代表観光名所の「鳥取砂丘」は一大生産地です。夏には砂地の表面温度は60～70℃になり、冬には一面が雪に覆われることもあります。こうした過酷な環境下でも育つ農作

鳥取県は台風などの自然災害が少ないのが特徴です。台風による災害の影響がないと「大山さんのおかげ」と中国地方最高峰の大山が南にあるので台風の進行を阻んでいるとよく言われます。大山は、南側から見ると、富士山の姿のように見えることから「伯耆富士」とも呼ばれています。

鳥取県の県鳥はオシドリです。水鳥の一種で県内の水辺に年中見かけることができます。メスは茶色で地味な見た目ですが、オスは鮮やかな羽の色をしています。常にオスとメスが一緒に行動しているので仲のいい夫婦のことと「オシドリ夫婦」とも言ったりします。



物としてらっきょうが適していたのかもしれません。鳥取県産のすいかのうち、最も生産量が多く認知度も高い「大栄西瓜」は、平成20年3月に商標登録され、ブランド化され全国的に有名となりました。ドバイ王室にも献上されるなどその人気は海外でも知れ渡ることとなりました。最後に梨です。鳥取県を代表する梨は二十世紀梨で、県花に二十世紀梨の花が選ばれているぐらい県民に親しまれています。

3.鳥取のギネス記録

県庁所在地のある鳥取市で行われる「鳥取しゃんしゃん祭」。毎年8月13日から15日に開催される鳥取市最大のイベントです。約4千人の踊り子が鈴の取り付けられた傘を持ち一斉に市街地を踊り歩きます。50回目を迎えた2014年に世界最大の傘踊りとしてギネス記録に認定されました。またギネス記録に近年認定されたものの一つに「競りで落札された最も高額なカニ」として鳥取松葉がにのトップブランド「五輝星」があります。2019年11月に鳥取港(鳥取市)開かれた初

競りでオスの松葉がにが500万円で落札され、ギネス世界記録に認定されました。



4.鳥取県農業共済組合の活動

NOSAI制度(農業共済制度)は、農家が掛金を出し合って共同財産をつくり、災害が発生したときに共済金の支払いを受けて農業経営を守るという、農家の相互扶助を基本とした「共済保険」の制度です。近年毎年のように日本列島を襲う想定外の災害に対し、安定した農業を望む農家には万一の際の補償が必要です。NOSAI制度という、災害から農業経営再建にむけた大きな防壁があることは農家の大きな支えになっていると考えます。

組織としての集約、業務の効率化を目指し、鳥

取県は2014年4月に鳥取県内が一つの組織として合併しました。制度を通じて農家を守り、また農家からも頼りにされ、農業の発展に貢献することを第一に考え、将来を展望しNOSAI制度を維持発展させることを目指していきます。

2018年から青色申告を行っている農業者を対象とした「農業収入保険」が新たに誕生しました。品目にとらわれず、青色申告に上がっている農産物に被害があったら補償する保険です。当組合では役職員一同、この新たに誕生した農業収入保険の推進に取り組んでいる次第です。

5.鳥取県農業共済組合の概要

本所所在地:鳥取県東伯郡北栄町東園271

本所TEL:(0858)37-5631

理事:15名

監事:4名

職員数:101名



鳥取県農業共済組合本所

鳥取県農業共済組合

